

## 宇都宮市における安全で安心のまちづくりについて

### 第1 犯罪の増加と「体感治安」の低下

最近の宇都宮市の犯罪情勢を見ると刑法犯の認知件数（交通関係の業務上過失致死傷罪を除く。以下同じ。）が増加し続け、平成15年には1万2千件を越えるに至った。内容的にも凶悪犯罪，知能犯罪，窃盗犯罪が増加するなど，市内における治安情勢は憂慮すべき状況となっている。

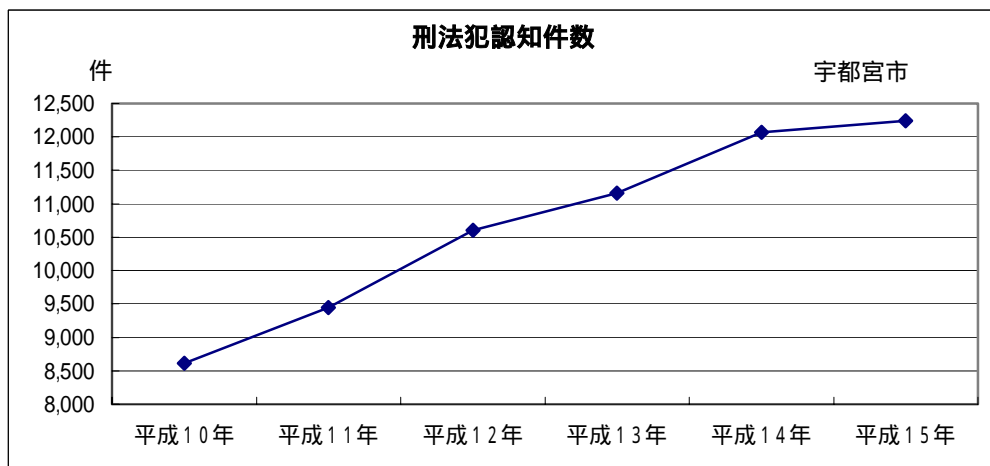
特に，窃盗犯罪の空き巣ねらいや自動車盗，ひったくりなど，市民の身近なところで発生する犯罪が増えていることに起因して，市民の不安が増大し，「体感治安」を低下させている。

#### 1 宇都宮市の犯罪情勢

##### (1) 全体的傾向

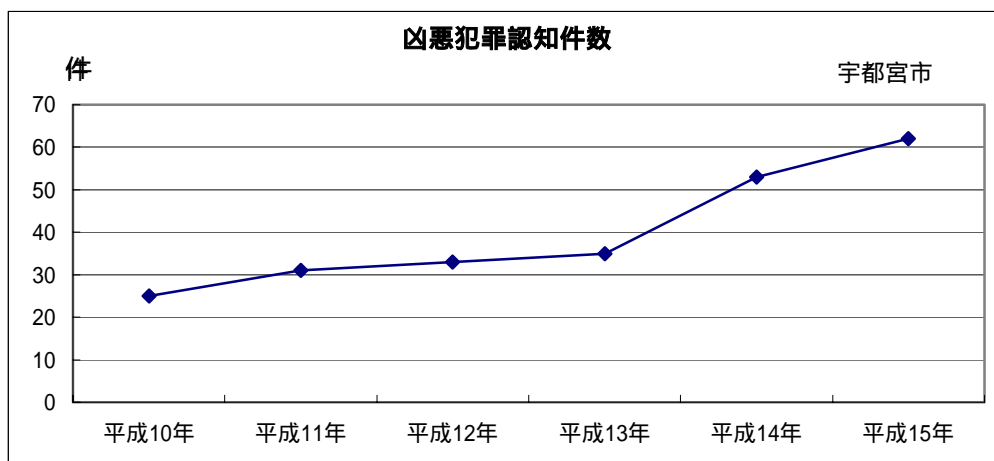
平成15年度の宇都宮市における犯罪の全体的傾向は次のとおりである。

刑法犯認知件数は12,246件で，5年前の1.4倍になっている。



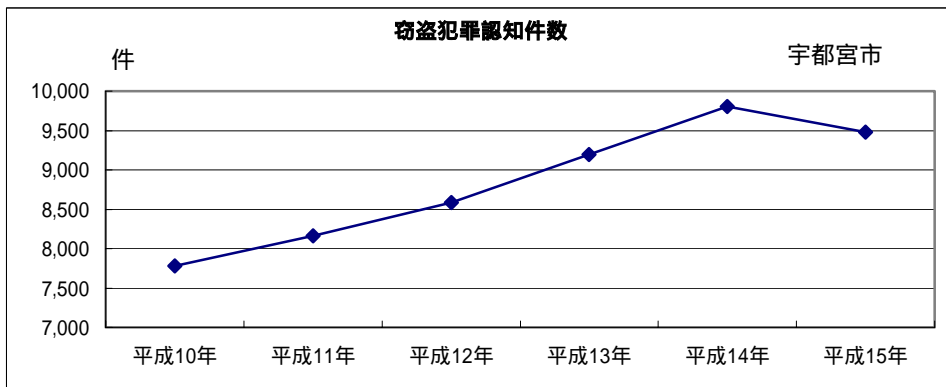
##### (2) 凶悪犯罪の傾向

凶悪犯罪の認知件数は62件で，5年前の約2.5倍になっている。



(3) 窃盗犯罪の傾向

窃盗犯罪の認知件数は9,480件で、5年前の1.2倍になっている。



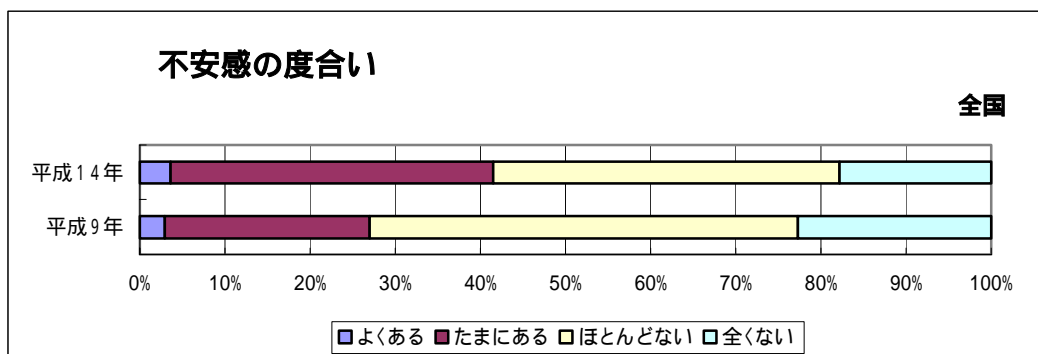
侵入犯の認知件数は1,832件で、その中で空き巣ねらいが最も多く、1,115件で5年前の3.3倍と大幅に増えている。

自動車盗の認知件数は、210件で、5年前の3.2倍に増えている。

非侵入盗の認知件数は4,837件で5年前の1.5倍になっている。このうち車上ねらいが1,750件で最も多く、5年前の1.7倍になっており、施錠してある自動車からの盗難が増加している。ひったくりについては、118件で5年前の2.2倍になっている。

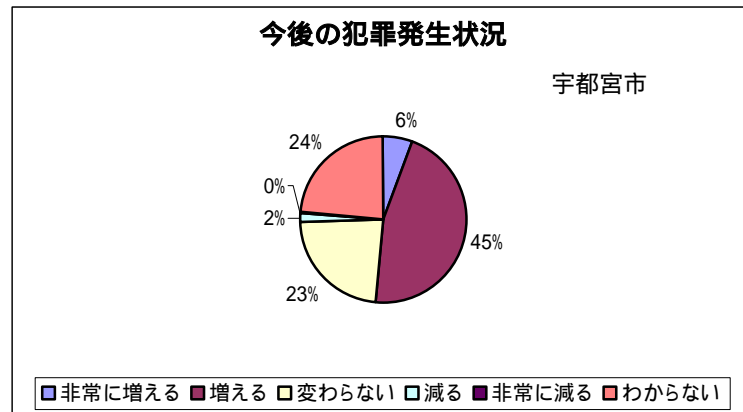
2 不安感の増大

平成14年3月に(財)社会安全研究財団が実施した、「犯罪に対する不安感等に関する世論調査」の結果(全国対象)によると、犯罪被害に遭いそうな不安を感じるかどうかについて、「不安を感じる」と答えた人は、41.4%で、5年前(26.8%)比べて14.6%増加しており、「不安を感じる犯罪」については、空き巣の割合が最も高く、次に通り魔的犯罪、すり、ひったくり、車上狙い、自転車窃盗の順で、人々は、身近なところで発生する犯罪に不安を感じていることが分かる。



不安を感じる場所としては、「繁華街」と答えた人が29.8%で最も多く、次いで「駐車場」(19.4%)、「駅」(18.7%)、「通勤等に使う道」(14.1%)の順で「特に不安を感じる場所はない」と答えた人は39.7%となっている。

また、宇都宮市が平成16年3月に実施した市民意識調査によると、今後、犯罪発生状況が増加すると感じている人は全体の51%で、半数の市民は治安面で何らかの不安を感じている。



## 第2 犯罪多発の背景にあるもの

なぜ犯罪が発生するのか、多発するに至ったのかについては、様々な要因があり、一概にはいえないが、昨今において犯罪多発の背景にあるものとして、次のことが考えられる。

### 1 地域社会の一体感・連帯意識の希薄化

交通機関の発達により社会のスピード化、高層マンション等の増加に見られるような住宅構造の変化や、人々の生活様式の多様化などにより、近隣と接触する機会が減少し、周囲に対し無関心になってきていることなどから、地域社会の一体感・連帯意識が希薄になり、従来有していた地域社会における犯罪抑止機能が低下していると考えられる。

### 2 遵法意識・遵法精神の低下

公共の場所での振る舞いをわきまえない、人の迷惑を考えないなど、社会における基本的なルールを守らない風潮が強くなっており、このような遵法意識・遵法精神の低下が、犯罪増加の一因になっていると思われる。これは、家庭におけるしつけなどの教育の低下などが影響していると言える。

### 3 ライフスタイルの変化に伴う自己中心主義な風潮

日本人のライフスタイルやものの考え方が変化してきていることに伴い、自己中心主義の風潮が広がりつつあり、個性的に生きることと自分勝手に生きることを取り違えている人が増え、地域社会に対する帰属意識を低下させている。そこには、情報化社会の発達に伴い、他人と接触しなくても様々な情報や知識が獲得できるようになったという社会的背景がある。

#### 4 犯罪の実行を容易にする社会環境の出現

インターネットの発達や携帯電話の普及に象徴されるように、社会生活における利便性が著しく向上していた反面、犯罪の用具や犯罪を実行するための情報を簡単に入手できることはもとより、我々が現代社会で享受している利便さを生み出している情報システムそのものが犯罪に悪用されており、このような社会環境の出現が犯罪多発の背景にあると考えられる。

#### 5 少年非行の深刻化

少年非行は深刻化の度合いを強め、少年による犯罪は依然として多発している。この原因として、家庭、学校、地域社会の少年に対する教育力の低下、犯罪抑止力の低下などのほか、そもそも範となるべき大人の社会で自己啓発力がなくなっていることが挙げられる。また、少年犯罪は、路上犯罪増加の原因とも言われている。

#### 6 長引く不況による経済情勢の悪化

経済情勢の悪化に伴う失業者の増加、雇用に対する不安、生活の困窮なども犯罪が増加している背景事情になっていると思われる。

### 第3 安全・安心まちづくりに関する意識調査について

宇都宮市の安全で安心なまちづくりを推進するに当たり、身近における犯罪発生の状況、地域における防犯に関する取組状況などを把握するために「安全・安心まちづくりに関する意識調査」を、平成16年3月に市民3,000人を対象に実施した。

「安全・安心まちづくりに関する意識調査」・・・資料5

### 第4 本市における取組状況について

宇都宮市においては、安全・安心まちづくりを目指すため、防犯灯の設置や管理に対する補助や学校への不審者情報の提供、校内への不審者侵入防止のための対策や、防犯ベルを児童・生徒へ配布などの防犯に関する事業を実施。

また、少年の犯罪の抑止については、少年補導活動の強化や暴走族対策を推進し、組織犯罪については、消費者保護対策の強化。道路、公園など公共施設においては、外部から見通せるような樹木の剪定を行ない、夜間の明るさ確保においては、照明設備の設置を行うなど環境整備に取り組んできたところである。

### 第5 安全で安心なまちづくりの課題

増加する犯罪を抑止し、安全で安心なまちづくりを実現するためには市民の理解と協力のもと、市、市民、事業者が一体となって取り組む必要がある。

## <市>

近年における身近な犯罪の増加は、市民に大きな不安を与えているため、日常生活における「安全・安心」の確保は、市民の大きな関心事になり、市民に最も身近な行政主体である市の果すべき役割が大きくなっている。

市では、防犯に関する事業を個別的に実施してきたが、今後、市全体で取り組む視点から、市民が犯罪に遭うことなく、安全に暮らせることを目標とする総合的な施策を実施していく必要がある。

宇都宮市の安全は、もはや市政の根幹をなすものであり、安全で安心して暮らせることが基本的財産であり、生存の基本的原点であるという意識にたち、条例策定を目指すなど宇都宮市全体で取り組んでいくため、法的な整備についても検討する必要がある。

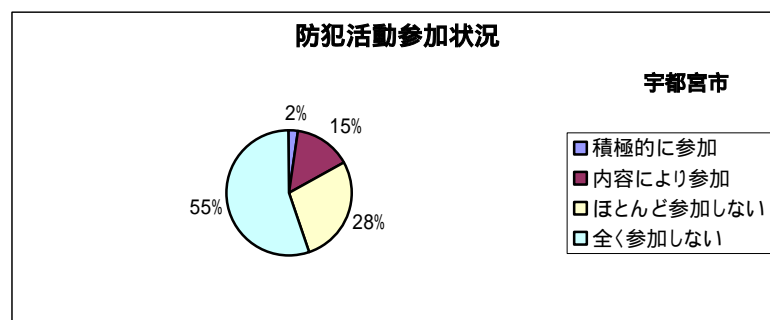
また、犯罪の問題については、警察が中心であったが、今後、行政機関の相互において十分に連携を取っていくことが重要である。

## <市民>

一部の市民が、「犯罪の防止は、警察や一部のボランティアに任せていけばよい。」といった意識を持っていることは否めない。地域におけるボランティアが中心となって防犯活動を行う団体が近年増加しているものの、その数は限られているので、すべての市民に、防犯に関する意識を共有していく必要がある。

これからは、市民一人ひとりが安全の問題を「人任せ」にすることなく、自分の問題であると捉え、さらには、「地域の安全は自分たちで守る。」という意識を持って、そのためには何ができるかを考え、実行していくことが求められている。

安全で安心して暮らせることを実現するためには、すべての市民が一体となって、良好な地域コミュニティの形成や犯罪に配慮した環境の実現など、犯罪のないまちづくりに関する取り組みを展開することが必要である。



## <事業者>

企業、団体もその地域の一員として事業を行っていることから、市民と同様に安全・安心に関する活動の担い手として一定の役割を果すことが求められている。

市民の生活に不可欠な場所でも、犯罪が発生していることから、企業、団体が事業を行う施設においても、犯罪被害に遭いにくい構造を確保したり、整備を備えたりするよう配慮する必要がある。